

δικαίωσις

ディカイオオー

知っておきたいキリスト教のことば (50)

義認 ぎにん

「義認」とは、その漢字どおり「義と認められること」を意味します。では義と認められるとは、どういうことなのでしょう。

まず、法的用語としての使われ方があります。罪人であるはずの人間に向かって、「あなたは義である」と宣告するのです。つまり簡単にいうと、無罪放免です。「あなたの罪は赦される」と中風の人に対して語られたイエス様の言葉を思い起こします。

また、現在置かれた状況から解放され、正しい状態に戻されるという意味もあります。義とされることは、苦しみや抑圧から救い出され、神さまとの正しい関係になるということも意味したのです。

それでは、わたしたちはどのようにして義と認められるのでしょうか。イエス様が来られる前は、人は律法を守ることによって、神さまの前に義とされると考えていました。しかし、人間の努力だけで神さまの前に正しい者となることは、不可能です。それは自分自身を振り返ってみると、よく分かると思います。

パウロはローマの信徒への手紙などの書簡の中で、「信仰義認」という考えを示しました。人は律法によって義とされることはなく、キリストへの信仰によってのみ義とされるということです。宗教改革の中でルターは、この「信仰義認」についての理解を深め、プロテスタント教会の福音理解の柱となっていきます。

わたしたちはイエス様の十字架の死を通して、罪の中にあるわたしたち一人ひとりが義とされることを信じています。そして神さまとの正しい関係の中に入れられるのです。

そのことによって、わたしたち人間に帰せられた義が、わたしたちによい働きをするように、促してくれるのです。

次回は「希望」です。楽しみに。



「マルティン・ルター」

ルーカス・クラナツハ(1472~1553年)

そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。

(ローマの信徒への手紙 5章 18節)

